

せきじりの

富津市立環小学校

学校便り No.15

令和元年12月10日

mail tamaki@futtu.ed.jp

URL http://www.futtu.jp/syo-tamaki/

芸術鑑賞会<落語のワークショップ>4・5・6年



11月26日(火)、4・5・6年生が音楽室において、芸術鑑賞会(落語のワークショップ)を行いました。

10月26日の峰促同盟による芸術鑑賞会(落語)に引き続き、落語についてより深く学ぶ機会となりました。今回の落語は、文化庁の「文化芸術による子供

の育成総合事業」として、子ども劇場千葉県センターを通し、講師として **柳亭 市弥** さん、実技披露担当として **柳家 小はせ** さんをお招きし、行われました。

「落語は複数の登場人物を右を向いたり左を向いたりしながら、演じ分けすること。」を実技指導していただきました。また、落語のアイテム『手ぬぐい』、『扇子』をどういう場面で使用するかなどを詳しく教えていただき、子どもたちも実演しました。落語の演目である『牛ほめ』や『初天神』の披露もありました。また、小唄(こばなし)として ①「おい、これ炭酸か?」「ソーダ」②「そのネズミは大きいか?小さいか?」「そのときネズミが『チュー』と鳴きました。」③「パン屋さんはどこだ?」「あのカド、マーガリン」などが紹介され、その中から子どもたちが小唄を選択し、実演しました。質問コーナーでは、「何で落語家になったんですか?」「人前でやるのは、はずかしいですか?」「名前の由来は?」「こぼした汁物を吸う音は、どうやって出すんですか?」など、子どもたちは興味津々でした。

最後に、6年生代表お礼の挨拶で、「落語は遠い存在でしたが、今日は身近に感じられました。ありがとうございました。」という言葉で締めくくりました。



校内マラソン大会

12月5日(木)、家族参観日の午前中に、校内マラソン大会が開催されました。約1ヶ月の練習期間の中で、今年マラソンコースを走る時期に雨に見舞われ、中止となることが多くありましたが、当日は、天候にも恵まれ、ほとんどの児童が自己ベストの記録を更新しました。走っている時に「苦しさ」はつきものですが、それに負けず、最後まで走り抜くことが大切です。「苦しさ」を乗り越えていくことにより、持久力や精神力が育まれていくものと思います。参加者全員が一生懸命に走り抜き、成就感あふれるマラソン大会でした。

<マラソン大会入賞者>

		男子			女子		
		低学年の部	中学年の部	高学年の部	低学年の部	中学年の部	高学年の部
1位	氏名	石井真向(2)	石井陽向(4)	渡辺悠馬(6)	水野結菜(1)	川崎葵依(4)	錦織悠花(5)
	記録	3分41秒	5分06秒	6分07秒	4分53秒	5分36秒	6分45秒
2位	氏名	尾坂太希(2)	市原夏樹(3)	三浦彪雅(5)	茂木心瑞(1)	吉田羽美(4)	渡辺はるか(5)
	記録	3分41秒	5分44秒	6分32秒	4分54秒	5分52秒	6分45秒
3位	氏名	明石悠雅(2)	三浦誠仁(3)	三浦龍希(5)	()内は学年 <女子> 低学年900m 中学年1200m 高学年1500m	伊東菜那(4)	茂木心翔(5)
	記録	3分48秒	5分53秒	6分33秒		6分00秒	6分56秒
4位	氏名		()内は学年 <男子> 低学年900m 中学年1200m 高学年1500m	三浦柊次(6)		渡邊心結(3)	成田愛実(5)
	記録			6分44秒		6分22秒	7分00秒
5位	氏名			池田隆成(6)		一森玲佳(5)	
	記録			6分54秒		7分05秒	
6位	氏名						
	記録						



おもいやり算

12月4日 朝会 校長講話

12月に入りました。1年の最後の月ですね。ところで12/4～12/10は、何週間でしょうか。……「人権週間」です。1年生や2年生の皆さんには、少し難しいかもしれませんが、「人権」とは、人としての権利です。私たちは、一人ひとり顔や性格が違います。一人ひとりに、違う良さがあります。また、一生懸命作った作品それぞれにも、違う良さがあります。だから、一人ひとりが大切にされなければなりません。人権週間のこの機会に、栃木県の小学3年生男子が書いた作文を紹介します。

ぼくは、社会を明るくするためにどんな事ができるかなと家族で話してみました。すると、お父さんが前にラジオで聞いた「おもいやり算」というのを教えてくれました。

おもいやり算というのは、「たし算・ひき算・かけ算・わり算」の4つがあります。

「たし算」は、助け合うという意味です。家族で助け合うのはもちろんですが、友だちや、こまっている人がいたら助けてあげることです。ぼくは、助けてもらった人が、よろこんでくれたり、少しでもわらってくれたりしたらいいなと思いました。

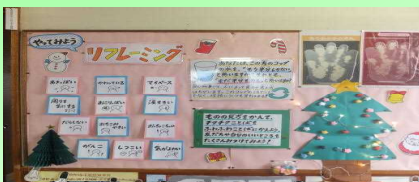
次の計算は、「ひき算」です。ひき算の意味は、ひきうけるという事です。お母さんにお手つだいをたのまれた時や、先生に何かをたのまれた時、友だちにたのまれた時に、ひきうけることが出来るようになりたいと思いました。ひきうけるという事は、かわりにぼくがやらないといけないので、すごくゆう気があることだと思いました。でも3年生になったので、少しずつだけゆう気を出して色いろな事をひきうけてみたいなと思いました。

次の計算は「かけ算」です。かけ算は、声をかけるという意味です。これは、ぼくが1番出来る計算だと思いました。元気のない人、こまっている人に「どうしたの？」と声をかけたり、友だちや先生、近所の人に会った時、「こんにちは」とあいさつする事も大切なかけ算だと思います。はじめに、ぼくから声をかけるのはドキドキしてゆう気があるけど、声をかけた後にへん事をもらうとすごく気持ちがよくなると思います。これから、たくさんの人にかかけ算をしたいなと思いました。

さい後の計算は「わり算」です。わり算の意味は、いたわるという事です。いたわるという言葉がむずかしかったので、じ書で調べたら「弱い立場の人などに親切にせつする」「気をくばって大切にせ話をする」という意味でした。今、算数で習っているわり算と同じで少しむずかしいなと思っていたらお父さんが、「人をいたわるとえ顔がかえってくるんだよ。」と教えてくれました。それから、ぼくと家族で考えたいたわるという事は、ぜんぶの思いやり算をつかわないとかんせいしないんじゃないかという話し合いになりました。だからお年よりや小さい子どもがこまっていたら、「かけ算」で声をかけて、「ひき算」でゆう気を出してひきうけて、「たし算」で助け合って、いたわりあえるといいなと思いました。

ぼくは、思いやり算という言葉をはじめて教えてもらって、すごくいい事だなと思ったので、色いろな人に知ってもらいたいなと思いました。そしてクラスみんなに教えてあげたいです。それが、どんどん広がっていつて町の人たちにも知ってもらったら、助け合っていたわりあえる明るく楽しい、みんながにこにこしている社会になればいいなと思いました。

保健室前廊下掲示物より



物事を見る視点のことを「フレーム」と言います。このフレームを変えることを「リフレーミング」と言います。コップの中に水が入っています。「もう半分しかない」と思うか「まだ半分もある」と思うか。同じ物事でも、人によって見方や考え方は違います。コップの話だけでなく、性格についても当てはまります。ものの見方を変えて「チクチクことば」を「ふわふわことば」にかえましょう。友だちや自分のいいところをたくさん見つけましょう。やってみよう。リフレーミング

◆あきっぱい→なじみやすい・好奇心おうせい・すなお

◆かわっている→味がある・個性的

◆マイペース→自分らしい・自分の世界がある

◆周りを気にする→心くばりができる・広い視野がある

◆おこりっぽい→アツい・情熱的

◆涙もろい→あいてのきもちを考えられる

◆だらしない→おおらか・こだわらない

◆おちこみやすい→しっかりとうけとめられる・深くものごとを考えている

◆おっちょこちょい→考えをすぐ行動にできる・きめるのがはやい◆気が弱い→しんちょう・用心深い

◆がんこ→意志がつよい・おもいがある

◆しつこい→ねばり強い・てっいてきに取り組める